

えどがわ 区議会 だより

SDGs中学生議会号



発行 江戸川区議会



<https://www.gikai.city.edogawa.tokyo.jp/>



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

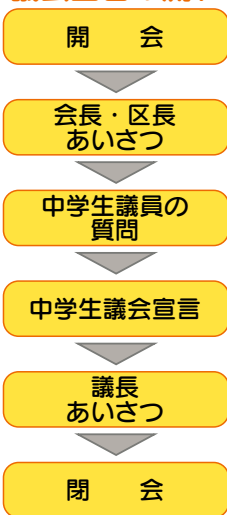
江戸川区議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

未来を担う中学生の声を聞く 江戸川区SDGs中学生議会を開催!!



令和5年11月11日、江戸川区議会では2回目となる「江戸川区SDGs中学生議会」を開催しました。全区立中学校と都立鹿本学園から代表中学生が集い4つの地区に分かれ、区議会議員とともにSDGsの視点からできることを話し合い、区への提言に向け準備を進めてきました。

～議会当日の流れ～



■本番当日は、中学生議員が議長と副議長を担当して、議会の進行を行いました。中学生議長が開会を宣言し、はじめに江戸川区SDGs議員連盟会長の高木ひでたか議員と齊藤猛区長からあいさつがありました。

■地区ごとに中学生議員が考えてきた意見や質問、提案を区に行い、区長や教育長が答弁をしました。

■質問終了後には「江戸川区SDGs中学生議会宣言」を行い、SDGsの達成に向けて自分達が主体となってSDGsに取り組む決意を宣言しました。

■最後にふじさわ進一議長からあいさつがあり閉会となりました。

詳細は区議会ホームページに掲載しております。
右記QRコードからぜひご覧ください。



江戸川区SDGs中学生議会宣言

- 快適で安全安心な生活を送り、様々な人に寄り添いずっと住み続けていける区にするため、中学生議会で学んだことを意識して行動していきます。
- 豊かに心地良く過ごせるまちにするために、区の取り組みに興味を持ってもらうために、自らが江戸川区を創り上げていく自覚を持ち行動に移すよう努めていきます。
- 誰にとっても居心地の良い区にするために、ともに意見を出し合い尊重し、個人や学校活動を通して、自主性を持って積極的に取り組んでいきます。
- みどりあふれる江戸川区、一人ひとりが紡ぐ明るく新しい社会を目指していきます。



宣言全文はQRコードからご覧ください。



江戸川区議会のSDGs

江戸川区議会では、これまでも車いすの方が傍聴するための階段昇降車の導入や傍聴席の手すりの設置、議場で車いすの方でも登壇できるようにスロープを設置する等、誰一人取り残さないことを理念とするSDGsへの取り組みを進めています。

そして、このSDGs中学生議会も江戸川区SDGs議員連盟が中心となり、中学生にSDGsへの知識・理解を深めてもらうことを目的に開催しました。これからも江戸川区議会はSDGsの達成に向け取り組んでいきます。

中学生議員の提案・質問について、次のページで紹介しています。ご覧ください!!



■議場演壇のスロープ

江戸川区SDGs中学生議会議員

小松川	露崎 心寧	清新 第二	大月 蒼羽
小松川第二	小川 梨真	瑞 江	稲生 彩音
松江 第一	角 祐希	瑞 江 第二	磯崎 愛
松江 第二	中村 ころこ	瑞 江 第三	森島 優衣
松江 第三	青山 夏都	春 江	東村 誠司
松江 第四	竹内 新	鹿 本	岡本 蘭
松江 第五	高橋 小雪	鹿 骨	西園 優羽
松江 第六	近藤 寧々	篠 崎	野口 耀太郎
二之江	荒木 篤道	篠 崎 第二	木平 陽向
葛 西	岡 志央理	小岩 第一	佐野 美香子
葛 西 第二	石澤 幸汰	小岩 第二	八木沢 紫咲里
葛 西 第三	西原 典子	小岩 第三	関 ひより
南葛 西	磯崎 めい	小岩 第四	橋場 美侑
南葛 西 第二	加賀 理央	小岩 第五	荒 かれん
西葛 西	田代 大翔	上 一色	入内 島希依
東葛 西	相原 一仁	鹿本 学園	道解 真人
清新 第一	中野 耀翼		

各代表中学生 33人

江戸川区SDGs中学生議会実行委員会

◎区議会議員	金井 高志	シエイム東京江戸川局	八重樫まゆみ
○区議会議員	川合さなこ	区議会議員	小林 ともお
国連の友 Asia-Pacific	金森 孝裕	区議会議員	佐野 ともこ
国連の友 Asia-Pacific	大戸 天童	区議会議員	金井 しげる
国連の友 Asia-Pacific	高島まゆみ	区議会議員	牧野 けんじ
株式会社 W TOKYO	田嶋 康弘	区議会議員	きもと 麻由
松江第二中学校校長	鈴木 啓之	区議会議員	伊藤 ひとみ
松江第五中学校校長	荒巻 淳	区議会議員	林 あきこ
都立鹿本学園主幹教諭	田中 剛	その他区職員	

◎実行委員長 ○副実行委員長

区議会広報委員会 (◎委員長 ○副委員長)

◎高木 ひでたか ○関 根 まみ子
小林 あすか 小 俣 のり子 滝 沢 やすこ

中学生議員からの主な質問

SDGsの考え方、区の施策について学習し理解を深めた中学生議員が、学習してきたことを踏まえ、斉藤猛区長に意見や質問を述べました。ここでは、各地区の質問と答弁の要旨を掲載します。

第1地区

問 多様性を認める社会を築いていくために、小中学校の授業の一部に、多様性について知ることができる機会をつくっては。

答 多様性の尊重は大変重要であり、先生達も研修等を通して理解を深めている。これからも様々な機会を通して、一人ひとりが自分と異なる考え方・生き方を尊重し大切にしようとする気持ちを持てる学びの場を多くつくることできるように、学校にも働きかけていきたい。

問 防火水槽や避難場所の表示を見かけるが、その場所や使用方法を知らない人が多いのではないかと。災害時の道具の設置場所を記したマップの作成や、区民に災害時の道具の使い方を教える機会を設けては。



答 新しい防災マップ作成とともに、道具の設置場所等の情報は防災アプリの活用も検討している。災害時の設備については地域の防災訓練等で説明や区ホームページに掲載しており、今後は公園の看板に二次元コードを入れて動画で使い方が分かる工夫も考えていきたい。

問 老朽化が進む歩道等の危険なところを区民から区に知らせることができるWEBサイトをつくる、あるいは区公式LINEを広めては。また、修繕の進捗状況等の対応の情報を可視化できるようにすべき。

答 日々のパトロールや点検で速やかな発見に努めているが、区民からの情報提供は有難いと思う。区公式LINEでは道路等の損傷が投稿できるので活用してほしいが、見えづらい部分は改善したい。日々の管理をしっかりと行い事故がなく長く使い続けられるように努めたい。

問 区内全中学校に募集要項を提示する等ボランティアの募集を行い、学校でも申し込みをできるようにすべき。中学生に対しSDGsアプリ「eito」の認知度を上げ、利用者数を増やす対策を。

答 区民まつりや自転車盗ゼロ作戦等、学校を通じて募集しているが、もっと簡単に申し込める方法を考えている。その一つが「eito」の活用であり、見やすく応募しやすくなるように改善し、中学生がボランティアに興味を持って参加できる環境をつくっていきたい。

問 ボール遊びが可能な公園が少ない。既存の公園のリニューアルや高架下の土地の活用、サッカー等様々な用途に転換できる多目的公園をつくっては。また、仕切りの設置や夜間帯は鍵を閉める等の管理を。



答 遊具等時代に合ったものに更新しているが、近隣住民から音がうるさいとの声もあり、ボールを使える公園が限られている。区内高架下の公園の中にはフェンスで囲まれボールを使える公園もある。また、鍵をかける公園もあるがマナーを守らない利用者もいる。管理問題等も含め利用しやすい公園を目指し、提案内容も受け止め考えていく。

問 喫煙者の目に留まるところに受動喫煙の影響等を示したポスターや看板を設置しては。また、たばこのポイ捨てに対して更なる対策を。

答 たばこについて注意喚起するポスターを張り出し、看板や路面シート等も設置している。これからは、高校生や大学生、地元企業の参加やSNSの活用、区施設での注意喚起や、たばこ販売店とも協力して例えばウェットティッシュを配った注意喚起等を行いたい。

問 住宅街の街路灯が少ないと感じるため、暗い街路灯への対策を。また、区ホームページの中に意見箱をつくり学校の手紙で周知する等、中学生の要望も気軽に区に届けられるツールをつくってほしい。

答 街路灯のLED化は概ね完了し、夜間パトロールの際に街路灯の確認を行い不具合があれば対応している。街路灯は明るすぎると生態系に影響するため適切な明るさを求めたい。また、区ホームページをリニューアルして区政への提案のページを分かりやすくしたい。

問 若者が魅力を感じることができるまちづくりのため、スケートボードパークや人工芝の運動場、野球場等のスポーツ施設を増やしては。



答 区内スポーツ施設の年間利用者は把握人数より多いと推計している。スケートボードパークについてはつくってほしいとの声はあるが、自分の家の隣にできるのは困るという人が多く、地域の声を聞きながら進めたい。何歳になってもスポーツができる環境を整備したい。

第2地区

問 ごみ問題について。

①区内を歩くとポイ捨てされたごみを見かける。区内小中学校を中心に拾ったごみの量を競う機会を設けることで、子どもはごみの多さを感じ、大人は綺麗なおとこにゴミを捨てる罪悪感からごみが減ることに繋がると考える。一度本区を大々的に掃除する機会を設けては。

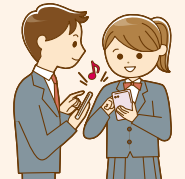


②給食の残菜について、各学校で残菜を減らす様々な取り組みを行っているが、完全に残菜をなくすことは難しい。他自治体では給食の残菜を肥料や燃料に利用しており、本区でも給食の残菜を新しく資源として活用し、バイオガス発電の燃料等に利用する取り組みを行っては。

答 ①区内を綺麗にする取り組みとしては、毎年5月と11月に環境をよくする運動の区内一斉美化運動があり、区内の小中学校が参加し、令和5年度からは高校にも参加を呼びかけている。競争要素を取り入れたごみ拾いも行われていたがコロナ禍で途切れており、今後学校対抗のごみ拾いイベントの開催も検討したい。

②やむを得ず廃棄せざるを得ない生ごみについては、平成14年度よりリサイクルに取り組み、現在は飼料化している。今後も食べ残しを減らす取り組みを進めながら、廃棄せざるを得ない生ごみはリサイクルしていきたい。燃料化については、食べ残しを家畜の糞等と混ぜて発酵させる手法により発生したバイオガスを発電の燃料に活用する事例も含め、他自治体の先進的な取り組み等も参考にしていきたい。

問 本区は「SDGs未来都市」に選定されたが、具体的な活動を知っている人は少ない。YouTubeショートやTikTok等を活用し、本区のSDGsに関する活動や区の魅力を広げる発信を。知名度を上げるために本区のキャラクターを使ったインパクトのある動画を作成しては。



答 区ではLINE、インスタグラム、フェイスブック、X(旧Twitter)、YouTube等を活用して、区の取り組みや魅力を発信してきた。えどがわ区民ニュースでは区内のSDGsの取り組みを紹介する番組を毎月1本制作し、そのYouTube再生回数は累計1万回を超えている。今後も本区の知名度を一層上げるためにYouTubeショートやTikTokを含め、時代に応じたSNSの使い分け、話題性を高める動画のコンテンツづくりに取り組んでいく。

問 地域おこしについて。

①開催されるお祭りの多くが地域ごとに開かれており、他地域に住む人には知られておらず、区民全体で交流できる場が少ない。誰でも気軽に参加できる大きなお祭りの実施を。SNS等を活用したお祭りの宣伝、高齢者も楽しめる工夫と、お祭りの運営には学生に関わってもらうことで、立場や世代を超えた交流ができると思うが。

②河川が多い本区の特徴を生かし、川にランタンを流す行事を実施することで、川に対するマイナスのイメージもプラスのイメージに変わり本区をより好きになると考える。環境に良い素材のランタンを使用し、回収も参加者が行うことで、最後まで楽しめるイベントの実施を。



答 ①大規模なお祭りの開催は、準備とそのお祭りへの参加、実現した後の片付けや反省会により人と人との繋がりが生まれ、コミュニティの形成が図られるという大きな効果があると思う。SNS等を活用したお祭りの宣伝で、多くの世代に参加してもらえるよう、区民まつりをはじめとする地域まつりの情報発信を更に充実させていきたい。

②水害等の災害のリスクはあるが、水とみどりに恵まれた自然環境豊かな場所が本区であると思う。ランタンを流すイベントについては、長崎のランタンフェスティバルや京都の嵐山灯籠流し等、全国的に見ても地域の魅力を高めるイベントもある。本区では旧中川で毎年8月に灯籠流しを行っており、多くの方が参加している。水辺に囲まれた本区の特徴を生かし、環境面にも配慮しながらランタンを流す部分についても皆さんと色々な形で話し合いをしていきたい。

区議会ホームページもご覧ください



区議会ホームページには、これまでの江戸川区SDGs中学生議会の活動について掲載しています。より詳細な中学生議会の各地区の質問と答弁の記録もありますので、右記のQRコードからぜひご覧ください。

第3地区

図 各学校では制服の選択肢を増やす、トイレ標識を工夫する等の男女差別をなくす取り組みを行っている。今の対策だけでは男女差別が減ると思えないが、男女差別をなくす本区の今後の取り組みについて。

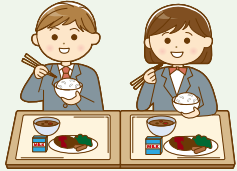
㊦ 本区では「性の平等と多様性を尊重する社会づくり条例」を制定し、男女平等社会と条例が描く理念の実現に向け取り組んでいる。女性の意見が区政運営には必要で、様々な会議に女性が一定割合以上参加する取り組みも行っており、今後も区役所全体で取り組みたい。

図 学習用タブレットによる学習について、タブレットに入っているアプリの使用をはじめ、作曲や絵を描くこと、動画や画像の編集等、幅広い範囲で学習用タブレットを活用できるようにしていくべき。



㊦ 小岩第二中学校のようにタブレットを使い姉妹都市であるハワイ州ホノルル市のミドルスクールとの交流をオンラインで行う等の学習活動も始まっている。今後も学習が充実するようICT環境を整えていくとともに、提案の作曲や絵を描くこと、動画撮影等で、個の学びに繋がるようなアプリの更なる活用を現場で進めてほしいと考える。

図 給食の食材がどのようにつくられているのかを知る機会を設け、食べることへの感謝の意識を持つことで、給食の食べ残し削減に繋がると考える。給食における食品ロス削減への具体的な対応と改善策は。



㊦ 生徒の体調や体質、食欲の具合、好き嫌い等により残菜が出てしまう。各学校でも、給食委員会を中心に食べ残しをなくす努力や、調理師の仕事を動画にして全校で視聴する等の取り組みを行っている。今後も、社会科や家庭科等と関連した食育の実施や、食材の流通と勤労の尊さを学ぶ機会を設け、感謝の気持ちを育む取り組みを広げたい。

図 エアコンの設定温度について各学校や先生によって異なっている。地球環境と生徒の体調を考慮したエアコンの設定温度の基準を決定し、区内小中学校のほか、区が運営する施設で統一した運用を図るべき。

㊦ エアコンの過度な使用は控え、夏は28℃、冬は20℃を目安に合わせクールビズやウォームビズを行っている。外から帰り最初は設定温度を低くしても室温は28℃、これからは20℃に調整するよう知らせていく。新たな国民運動「デコ活」では、様々な団体が身近なできることを提案しており、区でもそのような形で知らせ取り組みたい。

図 区内を歩くと缶やペットボトル等のごみが落ちていているのを見かける。清掃ボランティア活動を区から積極的に発信することで、ポイ捨てはいけないと知ってもらえごみが多く減ると考えるが、区の考えは。

㊦ ごみのポイ捨て等の様々な環境問題は行政だけで解決はできず、区民全体で取り組まなければならない問題だと考える。広報えどがわ、区ホームページやポスターの掲示等、色々な媒体で清掃ボランティアの情報を発信したい。また、SDGsアプリ「eito」でも、活動に参加しやすい、参加して良かったと思えるような工夫をしていきたい。

図 本区が行っている不登校支援について、区民に認知されていないように感じる。今後、区では不登校支援に関する情報をどのように広めていこうと考えているのか。

㊦ 学校は悩む生徒や保護者に直接、学校サポート教室やフリースクール等の情報を提供している。不登校支援の情報はリーフレットや学校の配布資料等で知らせ、今後も新たな方法を検討し、情報が必要な人には学校を通して支援する。互いに尊重し登校を楽しみに思う学校を築くことが解決策であり、その気持ちで学校生活を過ごしてほしい。

図 共生社会の実現に向け障害者や高齢者をより身近に感じてもらうため、小中学校の授業の中で講演会を体育館で行うことに加えて、教室で学校の児童・生徒、障害者、高齢者と交流する場を設けるべき。



㊦ コロナ禍が明け、学校ではそれぞれの教育計画に基づき地域の高齢者の福祉施設等の訪問や、パラリンピック出場選手を招待して交流している学校もある。これからも地域を含めた様々な場面や機会を通して色々な人と関わり、共生社会の中で自らの感性を養ってほしい。

第4地区

図 全ての人が交流できる場について。

①小岩地区では大人数で利用できる大規模な公園がない。高齢者、障害者等、各年代が積極的に利用でき、区民が気軽に集まることができる公園を設けることはできないか。



②区民が利用しやすい公園に、屋内・屋外一体型で、子どもから高齢者まで様々な年代の人が集まり交流できる施設の設置を。

③区民が気軽に交流できる場について、人数制限や通路が狭い故に車いす利用者が参加できない等の問題がおきないように、コミュニティセンター等の屋内広場の面積を増やすべき。施設のバリアフリー化を。

㊦ ①土地を売ってほしい旨のチラシを配っており、適した土地があれば区として取得し公園にしていきたい。学校の統廃合による学校跡地は公園として利用し、区の方針として公園面積を増やしていく。バリアフリー環境も整えて誰もが利用できる公園を目指していきたい。

②これからリニューアルする小岩公園は世代や障害の有無を超えて交流できる場となるように整備するが、屋内一体型という形はできていない。現在、総合レクリエーション公園の一部を屋内一体型の施設にする構想を考えており、小岩を含めた色々な地域にも広げていきたい。

③区内の全ての施設が広場のように使えるわけではないが、段差の解消、多機能トイレの設置等できるところをしっかりと行いたい。提案内容を区としても意識をしていき、気付いた点があれば教えてほしい。

図 自転車の利用について。

①自転車は環境にやさしく自動車に代わる移動手段として、より便利な活用が求められる。区が率先して駅周辺にシェアサイクルの設置を。

②駐輪場の数が少ないことや場所が分からないため、違法駐輪の数が多いと考える。駅の周りに建物を建てる際は駐輪場も併せてつくる等の取り決めや、駐輪場の場所を地図等に掲示して周知をすべき。



㊦ ①区内11駅の駐輪場で定期利用も可能な電動アシスト自転車等の貸し出しを行っている。民間主導ではコンビニ等、区内に138の自転車ステーションがあり、区外やどのステーションでも貸し出し・返却が可能である。知らない人もいるためしっかりと発信していきたい。

②地下に駐輪場をつくり、9000台以上の違法駐輪を98.8%減らすことができた。お店に駐輪場をつくるようお願いや、区の駐輪場の一部を2時間無料にする等試みている。小岩駅前の再開発では新たな駐輪場を整備予定であり、駐輪のルール・マナーも引き続きPRしたい。

図 区内のごみ箱の設置数について。

①ポイ捨てが多いため、ごみ箱の設置数を増やしては、外に出してある家庭ごみをカラス等が漁らないように、ごみを入れる倉庫の設置を。

②本区の歩行喫煙及びポイ捨て防止等に関する条例について、区民全員に周知すべき。ごみが多い公園や駅前の商店街等にごみ箱の設置を。

③多くの人が集まる公園にごみ箱の設置を。設置が困難な場合には、ポイ捨て防止の対策やごみ拾い活動の区における推進は。また、自動販売機横のリサイクルボックスは中身の量を視認できるようにすべき。



㊦ ①倉庫を置く場所等の課題もある。集積所をつくりたいが、設置場所は地域との話し合いが必要なため研究したい。以前公園にごみ箱を設置したが、家庭ごみでごみが増えることがあった。現在は自分のごみは自分で持ち帰るの願いをしており様々な角度から検討したい。

②ポスター掲示、バスの車内や駅の放送でポイ捨ては条例違反とのアナウンスを流しており、今後も様々な表現・媒体を使い取り組みたい。自分のごみは責任を持って持ち帰ることを啓発して環境問題を解決してきた経緯がある。職員が気付かない部分等これからも教えてほしい。

③清掃活動をする町会・自治会や団体にごみ袋や軍手等を支給している。個々の団体が一体になって活動できるよう横の繋がりを広げたい。リサイクルボックスは飲料メーカーが設置しており、中身が見えるものについて話をしていき、区役所内のごみ箱でも実証実験をしたい。

SDGs中学生議会開催までの流れ

6月28日・7月12日 実行委員会の開催

SDGs中学生議会の開催に向けて、江戸川区SDGs議員連盟から選出された区議会議員、中学校の先生方、国連の友Asia-Pacific等で構成される実行委員会を開催し、実施内容の調整を始めました。



初めての顔合わせ



7月22日 全体勉強会

各学校から選出された中学生33人が集まって、区が取り組んでいるSDGs、区議会のしくみ等を学びました。全体勉強会後にはグループワークが行われ、各地区を担当する実行委員会の区議会議員がサポートをしながら、SDGs達成のために区政へどのように働きかければいいのか、その課題等を各グループで話し合いました。



グループワークの様子

7月23日～ グループワーク

各グループで学校の夏休み期間も利用してグループワークを重ねました。中学生議員達による様々な意見から質問する内容をまとめていき、本番に向けた準備を進めました。

9月12日 実行委員会の開催

SDGs中学生議会実行委員会で、グループワークの進捗の報告とリハーサル・本番の進め方について話し合いました。



10月22日 リハーサル

議場で本番の練習!!

議場で本番の流れを実際に確認するため、リハーサルを行いました。中学生議員が議長役・副議長役に就いて議事を進行し、議事進行に従い、質問を行う手順等を学びました。



リハーサルの様子



11月7日 本番前最後の実行委員会

リハーサル後に行われたSDGs中学生議会実行委員会で、本番に向けた最終調整を行いました。

11月11日

いよいよ本番!!

SDGs中学生議会

本番を迎えたSDGs中学生議会。議場という緊張感のある場所でも堂々とまっすぐに区長へ質問と思いを伝える中学生議員の姿に、傍聴に来ていた多くの人が感銘を受けました。



SDGs中学生議会集合写真

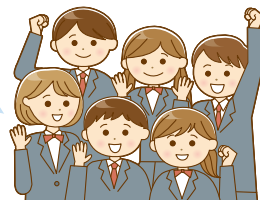
SDGs中学生議会を終えて

SDGs中学生議会を終えた中学生達にアンケートを実施し、感想や意見を聞きました。ここではアンケートの一部を紹介します。

他の学校での活動や皆さんの意見を聞いて、たくさん学ぶことができました。

初めは緊張しましたが、他の中学生議員達とも打ち解けることができ、最後まで楽しんで議論ができました。

江戸川区の良いところや改善点等を、区長や教育長から直接聞くことができとても貴重な経験になりました。



議場で発表ができたことを誇りに思っています。

SDGsに対する意識が大きく変わりました。SDGsについてもっと知りたいなと思いました。

議員の方々がやさしくサポートしてくれたので、最後までやり遂げることができました。